

須賀の寺子屋「理科教室 2024」実施報告書

2024.8.15

担当 大野

1. 目的 身近な自然を考える
山の健全な森が雨水を地下水として蓄え、湧水が川となり、海につながっていることを理解し、身近な水生生物にも触れてもらい、環境保全意識を啓発する。
2. 内容 水の環境について説明、メダカの紹介・観察・実験、絶滅危惧種の理由と保全について考える。
3. 日程 8月15日(木) 9:40~12:30 集合9:30 12:30解散
4. 会場 須賀公民館 ホール、調理室
5. 対象 地域の小学1年生~中学3年生(生徒を含む) 定員 30 名
6. 講師 NPO法人東海大学地域環境ネットワーク 大学生5名、藤野先生
7. 配付物 総菜パン36個、Pasco菓子パン32個
8. 参加者 小学生21名 (生徒:9名 一般:12名 / 地区外3人)
内訳 小1:2人、小2:2人、小3:3人、小4:6人、小5:1人、小6:6人、中1:1人
支援員3名(大野悟、三谷、大野) 保護者4名(小山内、櫛淵、見次、内田)
9. 経費 総菜パン36個=5,134円 大学生交通費 円

10. その他

- 当日体調不良で欠席の大学生が2名いた為、各グループのこどもへの寄り添いが不足してしまった。
- 申込みの小学生で、橋爪さんが寝坊で欠席。今後の参加について注意を促す。
- 前半は「メダカの観察」、後半は「ゴミ問題」を考え、環境学習が行えた。

11. ふり返し

- 2年生 たくさんいろんなことをしれたし、すごくたのしかったです。ゴミもんだいをかいけつするために、またゴミひろいががんばろうとおもった。
- 3年生 ペットボトルがようふくになるってびっくりしました。メダカのことをいっぱい知れてうれしい。もっとメダカのことをしりたい。これからもっとゴミをへらしたい。
- 4年生 ゴミをへらすために、さいりょうをする。メダカやいきもののためにもポイすてはしない。ゴミを分別することで、新しい物にすることができる。メダカのこと、とても楽しかったです。これからもゴミ等をへらしていけたらいいと思います。ペットボトルを

系にかえられること。メダカがさからうのがおもしろかった。(水流方向に対し逆行する修正) 色々なことを知れて、うれしかった。ペットボトルからようふくの糸ができるとしなかった。

5年生 3R をすること。メダカの特ちょうを知ったこと。

6年生 意外と知らないことが多くてびっくりした。授業の内容がおもしろかった！知らないことを知れたし、知っていることをさい確認できて、おもしろい勉強になりました。メダカの泳ぎ方。大山やプラスチックのリサイクル方法をおしえていただき、ありがとうございます。メダカの動きの実験で、1ぴきが別の行動をすると、みんな同じ動きをする動きがおもしろかった。リサイクルする方法をしれた。キャップとラベルを取ることに、ペットボトルをきれいにすること。メダカの事から、プラスチックのゴミまで広くしれた。

中学1年 ゴミを分別することで、再利用することができる。メダカのことを、よくわかった。

以上